

これから紹介する話は、朝の出勤時間帯に実際にあった話です。その①…あるビルでほぼ満員のエレベーターがとまり、そこへ1人の男性が乗ってきました。すると、重量オーバーのブザーが鳴りました。このようなき、最後に乗った人が降りるのがマナーとされていますが、その男性は、まったく気にならぬ様子。周りの人たちは「なんて自分勝手な人だ」「早く降りろよ」と白い目で見えています。その②…通勤ラッシュの駅のエスカレーターでは歩く人のために片側が空けてありますが、そこに1人の男性が立っています。そのとき、先を急ぐ人が「こっちに立つなよ」と、男性を押しつけるように追い抜いて行きました。

2つの話を読んで、皆さんはどんな感想を持ちましたか？実は、①の男性は聴覚に障がいのある人で、②の男性は脳卒中で倒れてマヒが残り、片側のベルトをつかめないため、体を支えるにはそこに立たざるを得ない人でした。重量オーバーを知らせるブザーは、聴覚に障がいのある人には聞こえません。急ぐ人がスムーズに移動できるように、マナーとして広まったエスカレーターの片側空けも、この男性のように障がいのある人にとっては、困り事となっていました。私たちは、この2人のように、さまざまな事情で周りと同じことができなかったり、行動に時間がかかったりする人もいることを忘れてはいけません。社会には、さまざまな事情を抱えた人が共に暮らしています。人権について考えるとき「相手の立場に立って」とよく耳にします。想像力を働かせることで、相手の立場に気

づき、相手への心遣いが生まれるのではないのでしょうか。共生社会は、周りの人の理解と行動によって築かれていくのです。

